

Title	東日本大震災を神学的にどのように受け止めるか：信仰と教会の再建のために実施結果：アンケート集計結果の概要(総合研究所 News：カウンセリング研究センターシンポジウム)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.4, 2012.2：25-29
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3694
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

カウンセリング研究センターシンポジウム
東日本大震災を神学的にどのように受け止めるか
—信仰と教会の再建のために—
実施結果—アンケート集計結果の概要—

いま、東日本大震災という未曾有の大災害に対して、ボランティアの活動、義捐金などによる復興支援、町と生活の再建が大きな関心を集めています。目の前にある緊急の課題に対応しなければなりません。しかし同時に、ここで起こっていることは、わたしたちに語られているメッセージでもあるのではないのでしょうか。夥しい数の人の死、壊滅的な被害、また精神的なダメージ。これらを前にしてわたしたちは言葉を失います。しかしこのようなときにこそ、東日本大震災を神学的にどのように受けとめたらよいのか、またここで起こっている出来事は信仰にとって、また教会にとってどのような意味があるのか？を考えてみる必要があるのではないのでしょうか？日本におけるキリスト教信仰と教会の再建のために、ともに考えてみようではありませんか？

日 時 2011年10月28日（金）13：30～18：00
場 所 女子聖学院中学校・高等学校クローソン
ホール

【プログラム】

開会挨拶 小倉義明（学校法人聖学院院長・キリスト教センター長）

講演1 「被災地から」
柳谷 明（山形県六日町教会隠退牧師）

講演2 「組織神学の立場から」
大木英夫（聖学院大学大学院長）

講演3 「聖書から」
小友 聡（東京神学大学教授）

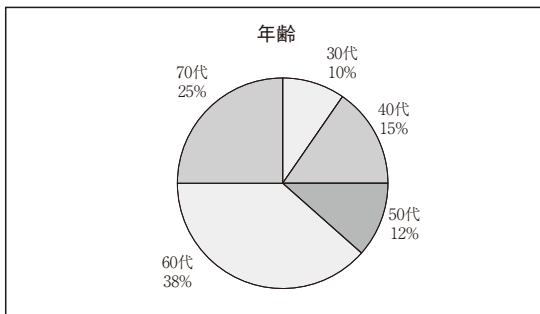
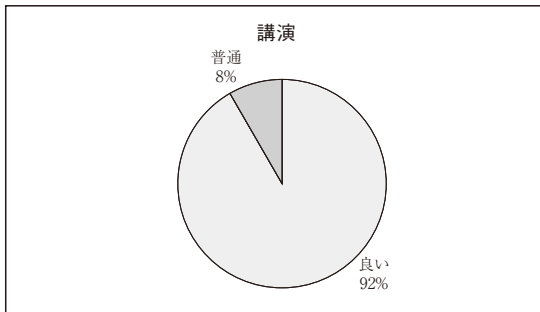
講演4 「死生学の視点から」
平山正実（聖学院大学大学院教授）

質疑応答

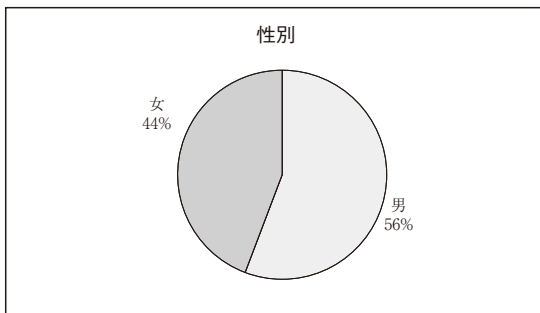
コーディネーター 窪寺俊之（聖学院大学大学院教授）

【結果の概要】

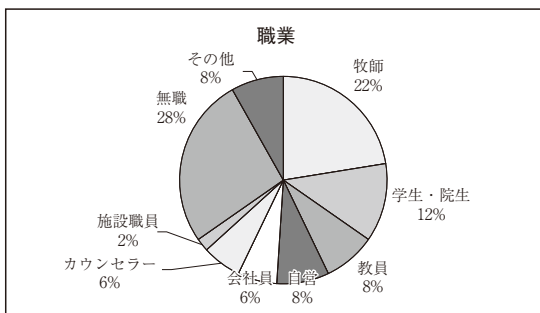
- ・参加者の人数は143名。内、アンケート回答者は53名。
- ・講演について、「良い」という意見が92%と高い評価を得た。



* 回答者の年齢別には、「60代」が最も多く38%、次に「70代」25%だった。

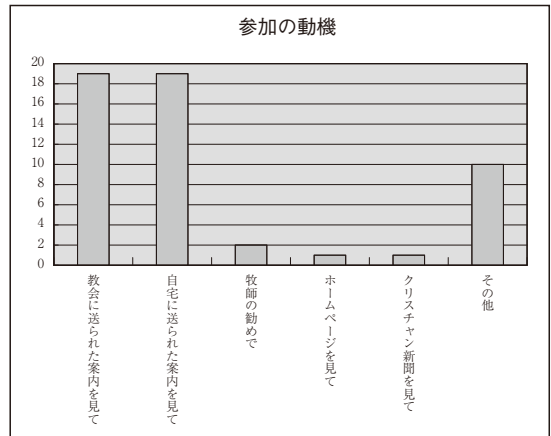


* 性別は、男性56%、女性44%であった。



* 職業別には、「無職」が最も多く28%、「牧師」が22%、次いで「学生・院生」が12%で

あった。



* 参加の動機としては、「教会に送られた案内を見て」「自宅に送られた案内を見て」が多く、大半を占めた。

「その他」の内容として、「知人の勧め」「チラシを見て」「ポスターを見て」など。

今回と同じテーマでお話を聞きたいという方のリクエスト

加藤常昭先生
宮田光雄先生
森野善衛門先生
山浦玄德氏
川端純四郎氏
堀 肇先生
森本あんり先生
平山先生

自由意見

- ・4人の先生方、それぞれで大変興味深く、よい学びになりました。どのように受けとめたらよいのか悩んでいました。そして行動したらよいのか…大きなヒントを与えられました。催して下さった大学にお礼を申し上げます。
- ・クリスチャンだから、仏教だから、神道だからという区別を無くそうと思う心は素晴らしい考えだなと感じました。たくさんの希望を持って行ってほしいです。「生老病死」ではなくキリストは「生と死の復活」いつも説教で聴く私たちは信じています。「生→死」「死→生」を学び、新しくキリストとともに生きることを喜びに感じます。富があっても一人では空しい、貧

しくても共に生きるものがあれば大きな富を得ている。「苦しみがあっても前進するのみ」を自分に言い聞かせたいです。

- ・柳谷先生のお話は具体的で大変わかりやくかったです。壁のない教会。テントが重荷をおろす場。仮設住宅での孤独に対する今後の課題など。先生方のお話で今日、とても考えさせられました。ありがとうございました。
- ・大震災の主の十字架の顕在があると私の教会の先生は仰いました。今日の平山先生の示された図式の(D)の部分でありましょう。しかし、悲しみの中にある身の回りの被災者、遺族の方に特にノンクリスチャンの方に、そのことをどう説明するのか？今日たくさんのヒントをいただきました。まだまだこれからも、祈るしかなく、悩み苦しむ自分でしょう。しかし、大木先生の仰った言葉を力に本気で悩んでいこうと思います。「意味はここから始まる」。「生者でなく、死者と共に苦しむ」。今日からの祈りには、少しだけ具体性がでるかも知れません。前向きに…。ありがとうございました。
- ・平山先生のお話もさることながら、めずらしい絵画も映写され面白く、楽しく見せていただきました。種を蒔くことは主のみこころにかなうことなのですね。ありがとうございました。
- ・レジュメにしたがって、わかりやすく講演され、よく理解できました。自然災害と人間の生と死、大変難しいテーマにもかかわらず大変心に響くものがありました。
- ・大変貴重な講義を頂ありがとうございました。



東京都北区の女子聖学院中学校・高等学校のクロウソソホールにて



それぞれの視点に基づき4人の講師が講演を行った。

- この時代に私たちキリスト者に、そして教会に与えられた主から任務をしっかりと果たして行くために、熱心に祈っていきたいと思います。
- ・尊い先生方のお話を聞く機会が与えられ、感謝いたします。私たちクリスチャンが祈り、目を覚まして日々を真正面から受け、歩まなければいけないと、改めて覚えています。祈りが積み重なったとき、主が栄光を表してくださいと信じて。イエス様とともに歩み続けて行くことに。伝道と宣教の使命を持ちつづけて。ありがとうございました。
- ・生き残った私たちが、死者を含めて我々の問題とすべきこと。またキリストの死と復活にあずかる私たちが、同じようにこの震災における多くの犠牲と共に死に、この機会を契機に新たに生かされる必要があることを学びました。4名の先生方より多角的に今回の震災について考え、自らの問題として受け止める機会となりました。ありがとうございました。
- ・東日本大震災を宗教の視点で捉えた話を一度聴いてみたいという思いで参加しました。大変興味深い内容でした。仏教(僧侶)の視点からも聴いてみたいと思っています。
- ・自分の考えについて、気づかされたことがありました。(震災について悩んでいますし、これからもですが)このことは大きいし、感謝いたしております。
- ・1から3番目までの講師の講演は、全てのお立場から、大いに訴え、激発されました。4番目ではもっと苦難に対するケアの面を中心に語って欲しかったと思います。

- ・心のケアの段階に移行する中で、ボランティアとして現地にも行っています。神学的にも併せて準備していきたいと思います。
- ・聖書の視点から大震災をどう受け止めたらいいか。とても深いメッセージ、考えさせられました。「土曜日のキリスト」も、帰ってから私なりに深めていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・聖書の中から聴くことの大切さを教えていただき感謝です。現状を具体的に知ることが出来たことも良かったです。災害が何故おきるか？災害に直接あわなかった者もどう生きるべきかを教えていただきました。イエス・キリストに救われたものとしてどう生きるべきか、聖書のメッセージ「明日に向かってリンゴの木を植える」。感謝し、教会の礼拝も続けたい。
- ・大変内容の濃いご講演をうかがうことができ、貴重な時間をすごさせていただきました。お一人お一人の講師の先生方にもっと時間的余裕を持って語っていただきたいとの思いもありますが、限られた時間の中ですので。今日は入り口に立たせていただいたという思いです。お話を聞かせていただいた者として今後について責任を感じます。
- ・今日は心豊かな貴重な先生方のご講義を聴かせてくださるこのようなシンポジウムに参加させていただきましてありがとうございました。今なお厳しい復興への現実をしっかりと見つめ受け止めることの大切さを深く感じました。まだ闇の中にあっても、希望の光を思い出し、希望を信じて、「明日へ向かってリンゴを植えていきたい」「今日一日を精一杯生きていきたい」と心深く思いました。そして、「復興を福興」へ、再び新しいいのち、いのちの復活を信じて行動を起こしながら、私も一步一步を大切に生きていきたいと思います。ありがとうございました。お疲れ様でした。
- ・柳谷先生：笑って手を離れたおばあちゃんのエピソードに「ゆずり葉」を思いました。私たちはゆずられた葉をどう生きるべきでしょうか？
大木先生：エゼキエル書で、神が「あなたがたは…」と言い直されたと聞いた時、魂が揺さぶ

られる思いがしました。一人称としてでは「何をすべきか」という宿題が残されました。

小友先生：ノアの物語は神の赦しの物語だというのは理解できました。では滅らされて死んでいった人たちのことをどう考えたらよいのでしょうか？

平山先生：「死は新しい生を開く」ことをよく理解できました。プラスとマイナスの出会いがcrisisであり、今日本もちようどそこに立たされていることを考えさせられます。エルサレムからガリラヤに視点を転換しなければならない時なのだと思います。本当にすばらしい会でした。ありがとうございました。

- ・ヘーゲルの「有・無・成」の論理がとても参考になりました。山形など被災地の方々が平穩に暮らせるよう支えあえること、自分に出来ることを続けていきたいと思っています。今日はとても有意義な講演会ありがとうございました。定期的、継続的に参加していきます。
- ・大変深い内容で、消化しきれるものではありませんが、非常に励まされるシンポジウムでした。ありがとうございました。
- ・難しい問題の連続でしたが、時間的にゆっくりしていましたので、集中して聴くことが出来ました。ありがとうございました。
- ・神学的に震災を受け止める。こうした機会はとても貴重なシンポジウムでした。ありがとうございました。
- ・大木先生から、エゼキエル書の「枯れた骨」は私たちであることを教えられたことを感謝します。



質疑応答と意見交換がなされた。

- ・色々と考えさせられる興味あるお話でした。もう少し議論を深めたいような感じがしています。
- ・途中からの参加でしたが、ためになるお話をありがとうございました。
- ・大変恵まれました。3.11のさらに深い受け留めが促されました。感謝します。
- ・千年に一度の時を、生きるための言葉を、更に求めていきたい。
- ・とてもよかったです。更に深く神学して、教えて下さい。
- ・スクリーンの利用の仕方についてお願いします。テーマを写しているだけでしたら、室内を明るくし、せっかく準備してくださった資料を読みながらお話を伺うことが出来ると思いました。16時を過ぎると暗くて読めませんでした。とても良い会でした。ありがとうございました。